

第 2 号

2004 年 10 月 29 日発行

文書館だより ふみくら 文庫

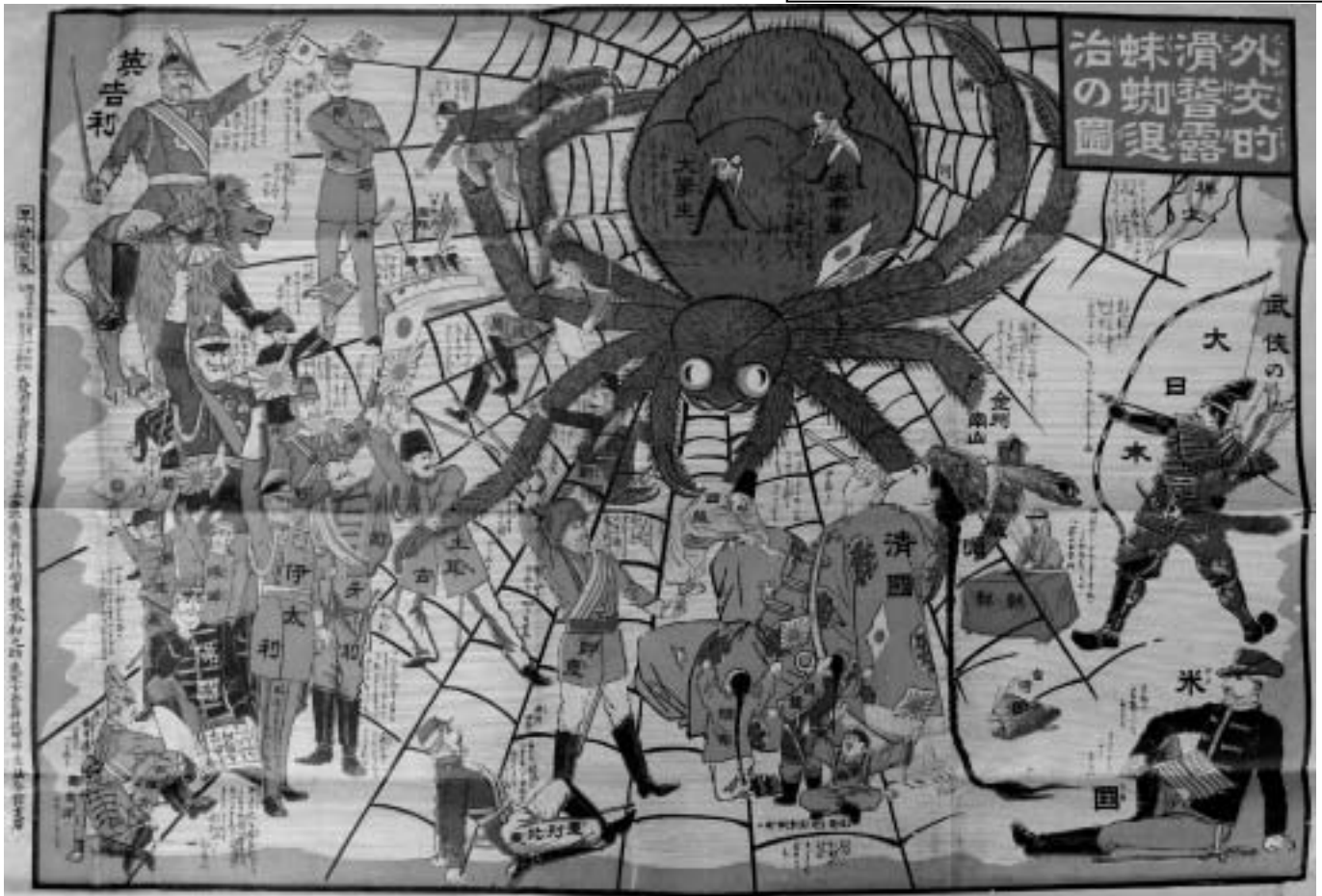
も ん じ ょ か ん 藤沢市文書館

Fujisawa city archives

〒251-0054 藤沢市朝日町 12-6

電話 0466-24-0171 FAX 0466-24-0172

URL <http://www.city.fujisawa.kanagawa.jp/jyohou/data06001.shtml>



「外交的滑稽露蛛退治の図」明治 37 年(1904 年)8 月 3 日発行

明治 37 年 5 月 26 日、日本軍は遼東半島最狭部の金州および南山にあったロシア軍陣地を、4300 余名の死傷者を出しつつ占領しました。この戯画は金州および南山での勝利をうけて発行されたものですが、鎧武者が毒蜘蛛の足を切断して矢を命中させる描写で日本がロシアに打撃を与えたことを風刺しつつ、日露を取り巻く国際事情も同様に戯画化しているという、興味深い構図となっています。

も く じ

収蔵資料展「日清・日露戦争と藤沢」開催 / 展示される主な資料.....	2
連載 藤沢山日鑑茶話 / コラム 文書館所蔵の図書について.....	3
連載 古文書の読み方 / 編集後記.....	4

収蔵資料展「日清・日露戦争と藤沢」

収蔵資料が語るもの

2004年11月1日(月)から12月28日(火)まで

藤沢市文書館3階展示室にて開催します。

開催にあたって

今年(平成16年(2004年))は、日露戦争開戦から100年(日清戦争開戦から110年)にあたります。

日清・日露戦争は、その勝利により、「栄光の明治」を体現するものとして書籍などに記され、また語り継がれてきました。しかし、出征兵士たちは、敵だけでなく、飢えや伝染病などとも戦わねばなりません。また、残された家族にとって、一家の生計の中心であった成年男子の出征は、経済的な苦境をとまなうものでした。

一方では、藤沢地域には、日露戦争で活躍した児玉源太郎を祀る児玉神社が大正期に造営されました。また、片瀬海岸には敗戦直後まで乃木希典の銅像がありました。そして市内の村岡城址公園には、東郷平八郎の揮毫による石碑も見られます。このように、日清・日露戦争と藤沢は、現在の私たちが想像する以上に、密接に結びついているのです。

この展示を通して、日清・日露戦争とは何であったかを知っていただくとともに、近代藤沢の一断面について知っていただくきっかけとなれば幸いです。

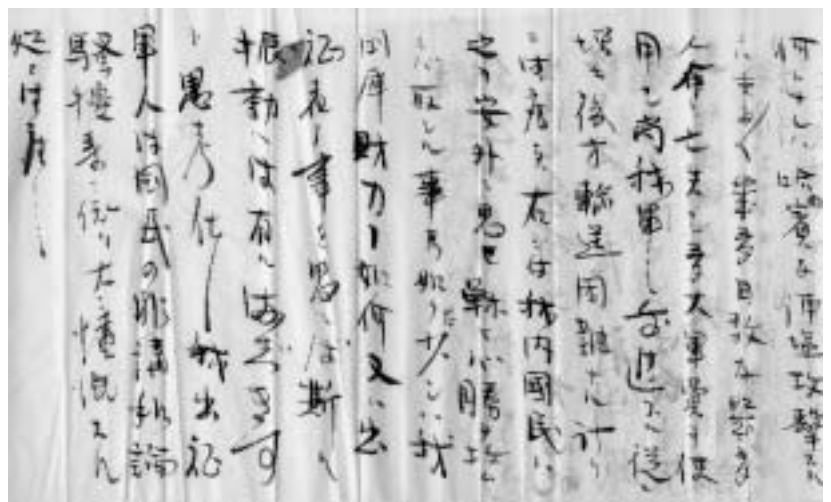
なお、1階ミニ展示コーナーでも日露戦争関係資料(旅順からの手紙と当時の関係写真)を展示しております。

展示される主な資料から



戦場で出された養生法(写真はその一部)

日清戦争下、台湾・澎湖諸島に遠征した兵士の日記に記されたもの。伝染病の蔓延を防ぐため、日常生活態度まで規定されている。



前線の兵士からの手紙(写真左はその一部)

日露戦争で前線に立つ兵士が戦傷者に送ったもの。講和をめぐる国内の不満爆発に憤慨する気持ちが率直につづられている。

「藤沢山日鑑」は遊行寺(藤沢山清浄光寺)の僧侶が、行事や地域の出来事、全国の末寺や信徒の動向などを日々書き綴った日誌です。文書館では現存する一番古い正徳元(1711)年の日鑑から順に翻刻し、現在弘化4(1847)年までの22巻を刊行しています。活字化されたとはいえ、延々並ぶ漢字の列に、思わず頁を閉じてしまう方もいるでしょう。でも、そこをがんばってながめていけば、そこそこで面白い話にぶつかります。このコーナーでは、そんな部分をお題を決めて紹介します。ぜひ日鑑に親しんでみて下さい。

子どもらのはなし

天保9(1838)年以降の正月14日には、西村(現西富)の子どもらが、寺の台所にやってきて、木製の大男根(陽物)を振り回し、祝言を唱えご祝儀の銭を貰っています(右史料中央のカギカッコ内)。小正月にはサイト焼と道祖神祭りが結びついた行事があり、それと関連するのでしょうか。でも子どもたちのこうした行為は後に廃れたのか、昭和40年代の藤沢市の民俗調査でも報告されていません。

8月の開山忌(一遍上人の忌日)には、村役人を食事に招きます。弘化2(1845)年からは近所の子どもら20人ほどが、給仕役を務めました。弘化4年はだいぶはしゃいだのでしょうか、「給仕に近所の餓鬼共来る、騒がしき事だ」と、お坊さんに記録されてしまいます。

遊行寺の塔頭の長生院では、寺子屋が開かれている時がありました。弘化3年3月24日に住職の恵海が28歳で病没したとき、檀家や近所の人と一緒に、筆子(寺子屋の生徒)たちが、遊行寺の本堂へ向う葬列を見送りました。

大人の世界のように思われる寺の中には、意外と子どもの姿が見られました。多少場違いだろうが、叱られようが気にしない、元気な子どもたちが目に浮かぶようです。



コラム 文書館所蔵の図書について

文書館で所蔵している図書にはどのような図書があるのでしょうか？

文書館へご来館いただくと真っ先に目にされるのは、1階の市民資料室の図書でしょう。ここは室内の四方の壁にそって書架が巡っており、藤沢の歴史を考える時に参考になる「郷土資料」と市役所が刊行した「行政資料」が並べられています。この様子は、『文庫』創刊号でも写真を掲載してご紹介いたしました。

文書館で所蔵している図書は、実はそれだけではありません。表通りに面した三階建ての文書館の裏側に二階建ての書庫があります。この一角に「一般参考図書」と呼んでいる図書が所蔵されているのです。内容的には歴史を研究する上で必要な図書(左写真の『史料大成』などがそれにあたります)や、各地方自治体や博物館が発行した歴史に係わる図書が「一般参考図書」になります。

「一般参考図書」は約二万点ほど所蔵しています。長年に渡って文書館が購入して収集したもの他に、さまざまな地域から当館へ寄贈していただいた「地方自治体史」(藤沢市なら『藤沢市史』のこと。地方自治体が地域に残された史料を活用して地域の歴史をまとめたもの)や博物館の展示パンフレットがあります。これらには藤沢市内の図書館にないものも多数ありますので、ぜひ文書館へお越し下さい。市民資料室の図書とは違って書架に並んだ本を直接手にとることはできませんが、カード化あるいはデータベースに登録して目録化するなど、お探しの図書をすばやくご覧いただけるように整理しております。市民の皆様のご利用をお待ちしております。

(本文)

指上申旦那請手形之事

一羽鳥村次郎兵衛同妻子共代々

禪宗賢院旦那二而御座候、

右之通次郎兵衛儀代々禪宗二紛

無御座候、御法度之吉利支丹并

不受不施二而八無御座候、若御詮議

之宗旨と申もの御座候八、何方

迄も拙僧罷出申分可仕候

為後日仍如件

寛文九年

酉四月

相州小田原

總世寺末寺

相州大庭村

禪宗

宗賢院

成瀬五左衛門殿

羽鳥村

右之通少も相違無御座候

八郎右衛門

(読み下し文)

さしあげ申す旦那請手形のこと

一(ひとつ)羽鳥村次郎兵衛、同妻子ども

代々禪宗賢院旦那にてござ候、右の通り次

郎兵衛儀代々禪宗に紛れござ無候、御法度

の吉利支丹ならびに不受不施にてはござ無

候、もし、ご詮議(せんぎ)の宗旨と申す

ものござ候はば何方(いづかた)までも拙僧

罷(まか)り出申し分け仕(つかまつ)るべ

く候、後日のため仍(よう)て件(くだん)

の如し、

寛文九年(一六六九)酉(とり)四月、相州

(そうしゅう)小田原總世寺(そうせいじ)

末寺(まつじ)相州大庭村禪宗賢院(そう

けんいん)羽鳥村名主(なぬし)八郎右衛門、

成瀬五左衛門殿、

右の通り少しも相違(ご)無候

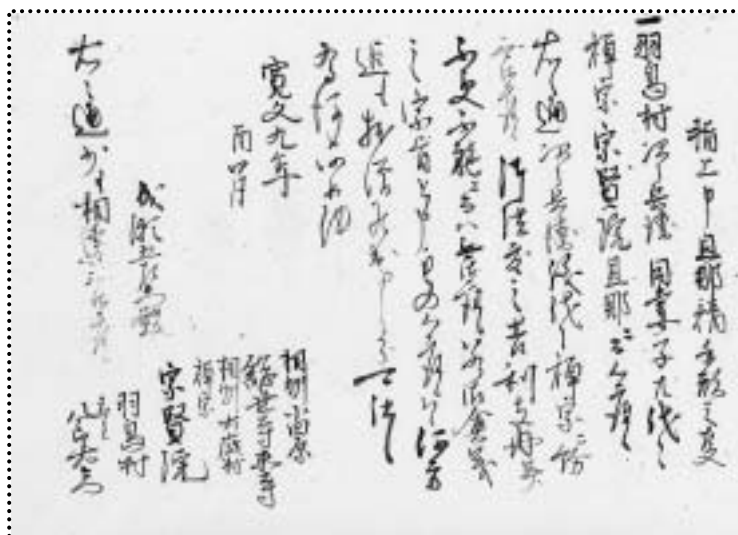
(問題) この文書には、江戸時代において禁制の対象になった宗派が2つ記されています。それは何と何でしょうか。

(答え) 吉利支丹(きりしたん)と不受不施(ふじゆふせ)でした。

(解説) 吉利支丹とは、キリスト教の呼び名ですが、後には宗旨ばかりでなく、信者あるいは教会に関することにも用いられました。また、不受不施(派)とは、日蓮宗の一派で、法華経を信じないものの施しを受けず、また施しをしないという教義を持った信者の集まりです。

江戸時代には人々はすべて仏教寺院の檀家であることを強制され(これを寺請制度(てらうけいど)といいます)毎年調査・申請され、宗旨人別帳に記録されました。また、問題で提示した文書は寺請状(てらうけじょう)・宗旨手形(しゅうてがた)などと呼ばれました。

なお、成瀬五左衛門は、当時の藤沢を支配する代官です。



資料情報をお寄せください

*当館は、文字や写真、音声等の記録資料の収集や保存を通じて、藤沢市域の大切な記憶を後世に伝える手助けをしたいと考えています。ご自宅で文書資料をお持ちの方や、資料を保存している方をご存じの方は、当館までぜひご連絡ください。

*創刊号の写真について、集合写真の背景にある建築物が、「藤沢銀行」であろうと、郷土史研究家の平野街道氏からご連絡をいただきました。どうもありがとうございました。

編集後記

今回は、11月1日から始まる収蔵資料展にちなんだ記事を掲載いたしました。残された兵士の手紙からは、日露の国力の差を正確に認識できたものの怒りが伝わってきます。戦争の歴史を考える際は、名もなき兵士の視点といったものを忘れないようにしたいと思います。(中)